

各位

令和3年12月1日

学校法人ノースアジア大学
広報戦略部

第12回民俗学シンポジウム開催

—社会・経済・民俗などから郷土秋田を考える—

ノースアジア大学雪国民俗館では、民俗学シンポジウムを開催します。
第12回目のテーマは「秋田学ことはじめ ー生きるカー」です。

自然豊かで積雪の多い秋田に生きる人々は、その土地に親しみつつ逞しく生き延びるために、多様な生活文化を築いてきました。その特有の文化には、暮らしの足跡や歴史、住民の郷土・秋田への想い等が刻み込まれています。今回は秋田県民の多彩な文化の特色を、雪国民俗館館員が社会・経済・民俗などの視点から報告致します。

ぜひ取材くださいますよう、お願い申し上げます。

【 日程等 】

1. 日 時 令和3年12月4日(土) 13:00～16:00 (開場 12:50)
2. 場 所 ノースアジア大学 2階201教場
3. テーマ 「秋田学ことはじめ ー生きるカー」
4. 内 容 内容につきましては、別添資料をご覧ください
○パネラー報告
鎌田幸男 (ノースアジア大学 経済学部特任教授 雪国民俗館館長)
村中孝司 (ノースアジア大学 経済学部准教授 雪国民俗館館員)
瀧澤 純 (ノースアジア大学 法学部准教授 雪国民俗館館員)
○質疑応答
5. 入場料 無料
6. 主 催 ノースアジア大学雪国民俗館
7. その他 取材を希望する場合は、12月3日(金)17時まで、下記の広報に関するお問い合わせにご連絡くださるようお願いいたします

【シンポジウムへのお問い合わせ】

ノースアジア大学雪国民俗館 担当：嵯峨
TEL 018-836-2405
ホームページ <https://www.nau.ac.jp/yukiguni/>
FACEBOOK <https://www.facebook.com/yukimin1960/>

【広報に関するお問い合わせ】

学校法人ノースアジア大学 (広報戦略部)
TEL 018-836-1341 FAX 018-836-2485
E-MAIL : koho@nau.ac.jp
〒010-8515 秋田市下北手桜守沢 46-1

第12回民俗学シンポジウム「秋田学」報告概要

○鎌田幸男（ノースアジア大学 経済学部特任教授 雪国民俗館館長）

「民俗文化財の根底にあるものー自然・風土と住民の想いー」

地域に生きる住民は、自然と風土の中で郷土へ愛着心を持ちながら逞しく暮らし、特色ある多彩な生活の文化を築いてきた。そこに形成された特有の文化には、暮らしの足跡や歴史、それに住民のそれぞれの想い（期待感、希望、生きる力、願い、信仰など）が刻み込まれている。

ここでは男鹿の地域に伝わる二つの国指定・重要（無形・有形）民俗文化財を採り上げる。1つは無形民俗行事のナマハゲ（昭和53年国指定、平成30年ユネスコの無形文化遺産）、他の1つは有形民俗の単材丸木舟（刳舟、昭和40年国指定）である。両文化財からは、男鹿の風土を基盤にした住民の暮らしぶりが読みとれる。こうした生活の文化財を理解するには、自然、人文、社会科学の諸相を含めた風土論的な視野からの考察が求められる。

本発表は民俗学を基点にしているが、ふるさと学（地元学）や地域学とも重複するところがある。「知の拠点づくり（秋田学）」に役立てたいものと考えている。

○村中孝司（ノースアジア大学 経済学部准教授 雪国民俗館館員）

「秋田県の風土から大豆食文化とその背景をひもとく」

大豆は日本の食事に欠かすことのできない食材である。古くより日本では、大豆をみそ、しょうゆ、納豆、豆腐などに加工してきた。大豆の加工は、豊富なタンパク質を体内に効率よく吸収させ、さらには発酵に関与する細菌をも体内に取り込んで健康を維持する役割を果たしてきた。この特徴は日本列島の広い地域にみられるが、加工のあり方とその利用の頻度については地域差がある。みそ、納豆は主に東北、関東での利用頻度が高く、豆腐は北陸、近畿で高い傾向を示している。東北では、余剰の食料を冬季用に保存するための

発酵食品を作ってきた。それには米を使った麴造りが盛んになったことが要因であろう。また、雪がじっくり味わい深いものに醸す技術をも発展させたに違いない。伝統的な食文化が農業の衰退や食のあり方の変化によって失われないう、後の時代に伝えていくことが望まれている。

○瀧澤純（ノースアジア大学 法学部准教授 雪国民俗館館員）

「秋田県民はヒトや生物の心をどうとらえているか？」

「イヌに心はあるのか？」この質問には、多くの人が「ある」と答える。では、「ダンゴムシには？コケには？……」と問いを広げながら、「なぜ心がある／ないと感じるのか？」と考えるとどうだろうか。私達にとっての心がなんとも不可思議なものであり、言葉にしにくく、定義が難しいものであると気づくだろう。今回の報告では、秋田県における心の定義の特徴を考えたい。そのために、報告者が行った「～に心はあるか？」と質問するアンケートについて、秋田県と東京都の大学生を比較した結果を報告する。マタギ文化や昆虫食の影響はあるのか、*アニミズム的思考はみられるのか、他者や生物との関わり方の違いが反映されるのか。すなわち、秋田の風土や文化が「心がある」という認識に影響を与えているのか否かを検討したい。

*アニミズム…無生物にも生命や意識を認める現象